

# Xc Ski & Snow Chou

1999/12.23

快晴

in 氷ノ山

メンバー

大塚賢一 44才  
木倉 博 37才

## Christmas Eve / Eve に Big Present

ほんとに今までには無い素晴らしいプレゼントです。

これほどの経験は何度も経験はしているけど、今までで最高のプレゼントでした。

前置きはさて置き、ホントにXCスキー装備を持っている方は非常に残念でなりません。かと言って仕事の人もいれば、マラソンの人、忘年会の人、パソコンのメンテの方もいるし・・・それぞれの都合があったのでしょうか・・・おいしい事をしましたねえ。

この今日という日は私にとって今までXCスキー&ワカンをしていて生涯忘れられない一日で私の人生の一ページに刻まれる良き一日です、それほどに最高の Present DAY でした。

当初は、XC & ゲレンデと想定していたが、引原ダム周回コースが10~20cmと積雪があまりにも少なくて「アカン、これはカチャカチャや!、予定変更・・・XC & ワカン!にする。」で戸倉のヤマメ茶屋まで車を走らす。途中でマイナス5度の表示、道路が白くなってきたので



日本庭園のヤマメ茶屋

4WDに切り替える。「よお～冷えとるでっ、今日は最高の日になる予感がするわ!」

7:30 -8度、ヤマメ茶屋到着

クロカン装備、ザックにもろもろの装備(フリース、ツェルト、シュラフ、シュラフカバー、ゴアレイン、食料、その他・・・)そして今日は深雪の新雪と想定していたのでスノーシューのワウサウを装備。

7:55 出発 快晴

いきなりの今シーズン初のバージンスノー、それも膝まで潜るのである。当然に私は言葉にもならない奇声を発する・・・興奮の坩堝である。

こんな素晴らしい大自然を独り占めしているのであるから当然であろう。

9:55 -5度 1080m 坂の谷分岐到着 装備変更

とんでもない膝下までのラッセルクロカンをしながら、約2時間5km



XC スキー板が見えないほど沈む

の距離をほどよくもがきながら夏道分岐、坂の谷方面に到着。

さあ、ここから雪山登山の始まりであるが、その前に一番大事なことが・・・地図、高度、コンパスを合わせて確認！。

XCスキーを脱ぎ、

時折、風のいたずらでまるでダイヤモンドダストのように太陽の光りを浴びキラキラと舞う様子は心を和ませてくれるものである。

ブナ林に入ると、いきなり今まで遮られていた太陽がまぶしく視界が360度眼

前に広がる。またまた私特有の奇声が山山にこだまする。

しかし、視界が広がると同時にいきなりプラス20cmほどの深雪である、今ふうに言えばもう膝上パンツ見え見えのミニスカ状態まで・・・スノーシューを履いていても足が沈むのである。

私もこんな深雪は初めての経験で、気分もハイテンションになりどんどん前に進んで行くが心拍数は極限に達し、「キクッ！交代」と言って後ろを振り向くと、『あれ～どこにもおれへん？、またキジでも打つとるんやろ』と思い私は自分一人の世界にどんどんはまって、前へ前へと突き進んで行くのだが・・・。

11:30 -1度 1230 m 前進不可能 昼食タイム。

前進不可能と言っては大きさではあるが、今ままでも幾度か前にさえぎる「ちしま笹」をヤブコギして来たのだが、前方には遙か向こうまでヤブコギしなければ進めない状態なので(当然に後ろにはキクはいない)時間も時間なので後退することにする。

「お～い、キクッ！、その下で飯にするから開けた所を確保してく



スノーシューでもラッセルだ！

スノーシューに変える。

しかし私のクロカンシューズは優れ物でそのまま登山ブーツにもなるで変える必要がないのだが、キクちゃんのは登山靴に変えるので装備変更も手間取る(なにせこの地点でマイナス5度なのだから)。

「キク、先頭行くか？」、「エッ、どこをいくんですか？、道が無いですよ」、「ハハハ、やっぱり無理か、ちゃんと付いて来いよ！」

10:40 -5度 1190 m 杉林ティンバーライン。

ここからブナ林に突入。

ここまでの樹林帯の杉林の中では、軟弱な木は雪の重みに耐え変えて折れているものもあり、我々の行く道を遮って倒れかかっているものありでなかなかスムーズに前に行かせてくれない、「オイ、しっかりせーよ！とストックで木にまとわりついた雪を払いのけてやるとピンと奮い立ち？元気になるのです」

しかし、ホントにすごい雪、雪、雪である。夕べと一昨日に降った新雪である。



腰までの雪を踏み固めて昼食タイム

て100万ドルのラーメンタイムです。

#### 食べながらの会話

「何しとったん？、全然付いて来んからに、チームワークなっとらんで！」、「付いて行こう思っても全然付いて行かれへんのやっ、」  
「何言ってねん、おまえはオレのトレースの後やからめっちゃラクなんやで！」、「それでも付いて行かれへんねや、このワカンが悪いのや！」  
「また、道具のせいかいな！、お前の悪いくせや！、体が固いので膝が上がらんかったんやろ」

と、言う具合でなんやかんやと面白い会話でした。

12:20 1度 下山開始 装備変更ゴアレイン着用 快晴。

12:42 杉林樹林帯突入。

下りは自分たちが道をつけたトレースを楽々に下山するので、3分の1の時間で軽々に行動出来て汗一つかかないのである。

12:54 坂の谷分岐到着 装備変更XCスキー。

れ！」と言って私が降りるとキクちゃんが腰までの大雪の中でもがいているではないかっ！、少しルートを外れるととんでも無い大雪なので平地を確保して踏み固めるのが大仕事なんです。

1m以上はある大雪を踏み固めて場所を確保し

ホントに登りと下りはこんなにも時間差があるので、いかに登りが大変なのはこの時間をみても一目瞭然である。しかしこれも幾人かのパーティを組んで先頭交代をして行けばかなり時短出来るのであるが、今日は・・・サッパリであった。

13:20 XCスキーで下山。

これも我々のトレースの後を下り降りるので、ホントに快適そのものである。滑る滑る、またまた私特有の奇声の連発である・・・しかし、この快適な滑りにもまたまた彼は何をしているのやら、全然に姿が見えない。そこでまた私の罵声が「コラ～、ビビらんと飛ばさんかいつ！」

14:10 ヤマメ茶屋ゴール。

振り向いて氷ノ山方面を見ながら、「素晴らしい充実感をありがとう！」とお礼を言って帰路についた。

帰宅は16:30で今日の洗いものを洗濯し、言うまでもなくリオスで今日の疲れをとるためにケアのつもりでTreadmillで軽く5kmランをしてPoolで1km泳ぎ冷水風呂でほろよく疲れた下半身を癒してやり今日は最高に充実した一日でした。

『氷ノ山よありがとう、そして乾杯！！』



氷柱